

資 料

資 料

「総合的な学習の時間」における障害体験学習の指導案とワークシート

A小学校では、平成12年度の試行を経て、平成13年度に、6年間にわたる障害理解授業「やさしさってなんだろう？」が計画され、現在進行中である。

第1学年と第2学年では、生活科において、主として聴覚・言語障害を主題とした理解授を行い、第3学年以上では「総合的な学習の時間」において、表1に示したような順序で4種類の障害体験学習を行うこととした。

「やさしさってなんだろう？」6年間の計画

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
指導時数	2～4時間	2～4時間	15時間	15時間	15時間	15時間
実施時期	3学期	2学期後半	1学期前半	2学期前半	1学期後半	3学期
学習題材	ことばあそび	ことばあそび	視覚障害体験	難聴・言語体験	車イス体験	高齢者体験
学習のねらい	・きく・はなす・伝えることのたのしさを知り、伝わらない不自由さ、わからない不安感を感じる。(コミュニケーション・情報伝達障害)		・視覚障害の知識や体験を通して、障害による不自由さと不自由さに対する生活上の工夫について知る。	・コミュニケーション障害の知識や体験を通して、障害がある人の存在を知る。 ・6年生までの学習内容について概観する。	・車イスでの校内探検を通して、自分が車椅子ですぐずとしたら、どのような工夫が必要か考える。	・高齢者の体験をすることにより、自分たちの町の、バリアフリー対策について知る。 ・自分たちの町をどんな町にしたいか、夢を語る。
主な活動内容	1. しりとりあそび。 2. 限定しりとりあそび(ことばの障害)。 3. うまく言えないと生活が不便。	1. 口ばくビデオで難聴体験。 2. きこえないことの不安やいらいらを知る。 3. どんなときにこまるかな? どうすればいいのかな?	1. 視覚障害について話し合う。 2. 折り紙、ボールキャッチ、歩行、衣服の着脱等の疑似体験と調べ学習(生活の工夫)。 3. まとめ: 体験・調べ学習による疑問点について盲の人に尋ねる。 4. 盲についての知識を知り、なにができるか考える。	1. 口ばくビデオで難聴体験。 2. きこえやお話の仕組みについて知る。 3. 補聴器って知ってる。 4. 吃音についてしりとりで体験。 5. 難聴の人、吃音の人の気持ちについて考えよう。 6. なにができるだろうか。 7. 他の障害があることについて知る。	1. 車イスはどんな人がつかうのだろうか。 2. 車イスについて想像してみよう。 3. 車イスにのってみよう。 4. 車イスで校内探検をしよう。 5. 車イス介助の仕方を考えよう。 6. 車イスにとってどんなところが不便だっただろう。 7. 学校や町ではどんなくふうがあるか。 8. わたしたちができることはなんだろう?	1. 高齢者になるとどうなるのだろうか。 2. 高齢者の体験してみよう(高齢者疑似体験セット)。 3. テーマ(自動車、駅、建物、町...)をみつけ、バリアフリーについて調べよう。 4. そのテーマをもとに自分ならどんな工夫をほどこすか夢を語ろう。 5. ユニバーサルデザインについて知ろう。 6. 「やさしさってなんだろう」を話し合おう。
留意事項	・本授業を通してコミュニケーションの基本(【聞く・話す・話し合う】の基本姿勢)を身につける。			・本授業を通して学習の仕方を身につける(【知識を得る→体験する→考える→まとめる→伝える→話し合う】の過程を重視)		

ここでは、視覚障害体験、難聴・言語障害体験、車イス体験、高齢者体験のそれぞれについて、学習のながれ、導入授業のスライド(マイクロソフト社パワーポイント画面)、児童用のワークシートを紹介する。

これらは、町田市立鶴川第三小学校通級指導教室の豊田弘巳先生を中心に、同じく通級指導教室の三浦八重美先生や多くの通常の学級の先生と筆者との協働によって作成されたものである。